

序

著者	高堂 俊禰
雑誌名	関西大学商學論集
巻	20
号	3-5
発行年	1975-12-25
URL	http://hdl.handle.net/10112/00021064

序

関西大学創立90周年に際し、これを記念する事業に協賛してここに『商学論集』の特輯号を上梓することとなった。われわれはいま、やがて1世紀にもおよぼんとする関西大学の光輝ある歴史のなかで、幾多の風雪に耐えて今日にいたった商学部の歩みをふり返るとき、まことに感慨の深いものを覚える。

おもえば、わが商学部の歴史は、明治39年に商都大阪の要請に応じて学部および専門部のなかに商業学科として創設されたのに始まり、大正11年の大学令によって名実ともに関西大学の商業学部として発足したが、やがて大正13年に経済学科を増設するに至ったのを機に、商業学部を経済学部へ改称して商業学科および経済学科を内包することとなった。その後は昭和10年以後、再度、改称して経商学部とされたこともあったが、わが学部の創設時の精神と伝統は商業学科のなかに一貫して継承され、戦後の昭和23年に、新制大学の発足とともに、法・文・経の諸学部と並んで再び商学部として独立することとなって今日に至っている。

いまここに、商学部の生成・発展の時期を通じて尽力された数多くの先学諸先生の研究と教育に示された献身的な労苦に想いをいたすとき、あらためてその努力と貢献に感謝の念を禁じえないとともに、これを引き継ぎながら、わが大学とわが学部の、さらに限りない充実と前進を実現させるべきわれわれ一同の使命と責任の重さには身のひきしまるものを感じる次第である。

いまやわが商学部は、総数36名におよぶ専任の教員を擁し、経営・会計・貿易・商学・経済の各専門分野において相互に切磋琢磨しつつ内外の学会で積極的に活躍する一方、教育内容の充実に向けて真執に研鑽を重ねている。ここに見られるような『商学論集』の刊行はこうした専任教員の時どきの研究成果を示す重要な機会にほかならない。

ちなみに、関西大学における専任教員の研究成果の発表は、昭和9年の「関西大学研究論集」の創刊をもって初めて固有の機関誌が発足したが、その後、戦時下における中断を経て、昭和27年に「人文科学論集」として引き継がれ、やがて昭和25年に「経済論集」が独立・刊行されるとともに商学部関係の研究成果も、これに収録されることとなった。こうしたなかで、さきの創立70周年を契機に、この際商学部独自の研究活動を一そう拡大・推進することが急務であるとの機運が熟し、昭和31年4月に、「関西大学商学会」の設立によってここに『商学論集』が独自に刊行されることとなったのである。爾来20年の歩みのなかで、それはわが国の学問水準の向上のために少なからぬ成果を世に問うてきたし、同時にわれわれのスタッフもまたそのなかから育てられてきたのである。

ともあれ、今ここに刊行のはこびとなった記念論文集は、関西大学商学部のスタッフによる研究成果の一部分にすぎず、そのかぎりでは、ささやかなものであるけれども、われわれはこの機会をえて関西大学の90周年を心から記念し、あわせて、さらに輝かしき未来への躍進に想いを馳せながら研究と教育を通じてその使命を果すべく決意を新たにする次第である。

昭和50年11月4日

関西大学商学部長

高 堂 俊 彌